## 令和4年産米出荷契約・転作を取りまとめ

令和4年産米の出荷契約や転作の取りまとめが、3月中旬から当JAの支店や営農センターなどで行われました。営農経済部の職員が今年産の作付け計画などを生産者に尋ねながら、書類と差異がないか確認して受け付けました。

職員は生産者から今年の栽培品種や面積、出荷数量やカントリーエレベーターの利用申し込みなどを聞き取り、職員からの説明を受けた生産者は、内容を確認して契約を結びました。新型コロナウイルスなどによる主食用米の需要減退が続いており、水田活用米穀や交付金制度、3年産米の在庫状況や米価などの話題も交わしました。

4年産米の出荷契約の内容を確認する生産者ら

## 「サキホコレ」総決起大会・生産販売会議

秋田米新品種「サキホコレ」の本格デビューを今秋に控え、生産者総決起大会が3月17日(木)に開かれました。県やJAの関係者、生産者らが参加し、全国の消費者に高品質な「サキホコレ」を届けることを誓いました。「サキホコレ」の生産団体には佐竹敬久知事から登録証が交付されました。

4月7日(木)にはJAグループの生産販売会議が行われ、県内JAの職員や栽培研究会の会長らが出席しました。今年度の生産販売方針について意見を交わしたほか、「サキホコレ」に効果的な栽培方法や土壌管理などを学びました。

今年度、当JAでは78戸の生産者が「サキホコレ」の栽培に取り組みます。

佐竹知事から登録証を受け取った各生産団体

# NEWS & TOPICS

## 安全・安心な農産物づくり推進協議会

3月23日(水)、安全・安心な農産物づくり推進協議会がJA秋田なまはげ会館で開かれました。当JAや行政、市場関係者らが、令和3年度に行われた生産履歴記帳運動や残留農薬自主検査など、出荷物の安全性を証明して安心できる農産物を届けるための取り組みを振り返りました。

市場関係者からは「これまで通りの厳しい検査を継続し、引き続き安全な農産物を出荷してほしい」と声が上がりました。

令和3年度は野菜や果樹、米などの残留農薬の検査が112回、放射性物質の検査が18回行われました。令和4年度も安全な農産物の生産に向けた指導や研修、検査の徹底に努めていきます。

生産履歴や農産物検査の実績を振り返りました

## 金足農業高校に農業用ドローンを贈呈

3月24日(木)、当JAから県立金足農業高校に農業用ドローンを贈呈しました。地域貢献活動の一環で、生徒の農業への関心を高めて担い手農家の育成に活用してもらう目的です。

贈呈した機体は1時間当たり最大で6・7ヘクタール分の散布作業ができ、自動運転にも対応しています。今後ライセンスを取得した教員が圃場で使用し、教員の実演などを通して生徒がスマート農業への理解を深めていきます。

佐藤広美組合長は「御校から、これからの農業を担う人材が生まれることを期待している」と話しました。松田聡校長は「技術を生徒に伝え、他を牽引するような生徒を育てたい」と答えました。

松田校長にドローンを贈呈する佐藤組合長(右)

★今月のあなたの運勢 2022年5月★ 双子座(5.21～6.21) 前半は頭の痛い問題が多いものの下旬には解決の兆し。焦らずできるだけ余裕を持って動けるよう計画を立てて